

霊長類のエサやり

住若 高章

日本モンキーセンターは、1956年にできた施設で、サル仲間について研究するなどの目的でつくられた。そこには、70種ものサルが展示、飼育されている。

サルたちが安全に楽しく生活できるように、野生の暮らしに近づけたり、自分で行動を選べるようにするなど、エンリッチメントを考えている。それは、エサやりにも考えられている。

チンパンジーのエサやりの工夫

チンパンジーにただエサをあげるだけでは、決まった時間に決まった量のエサをもらえられるので、野生には近づけられない。なので、頭をつかわせるためにも、エサを隠さないといけない。そこで、消火ホースや紙などでチンパンジーのエサとなる、芋や、ピーナッツを包んで隠す。それを与えることによって、チンパンジーはエサを食べるためにホースの中から取り出したり、紙を広げたりしないといけない。そうやって頭をつかわせている。



ジェフロイクモザル

ジェフロイクモザルも運動ができるような設備や、エサやりの工夫がされている。エサやりでは、木のつりばしにつかまって、下にいる飼育員さんの投げるエサを手で、キャッチする。決まってキャッチするのは、強いサルであった。だが、弱いサルも決まった時間にエサはたべられている。



感想

動物園で飼われている動物を野生に近づけるのはとても難しいことだと思います。それを成功させられているモンキーセンターは、それぞれのサルの特徴をすごく理解できていると思います。